

会員みなさんへ

子ども達に接するとき、心掛けていること

理事 甲斐田 生嗣

私は2年ほど前より、「大分少年少女発明クラブ(主として小学生高学年が対象)」で指導員をしています。また自治会でのイベントや小学校の児童育成クラブなどで子ども達と接する機会がありますが、このようなとき、常に心掛けていることがあります。それは、子ども達が「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する」ように育ててほしいということです。そのためには、子ども達にどう接したらよいか、どう指導したらよいか、考えながら事を進めています。もう一つあります。それは、人はみな本人が意識しなくとも、得意とすること、やってみて楽しさを感じ、続けたいと思うことを持っているはず。子ども達には、こういうものを早く見つけてそれを伸ばして欲しいのです。そのためにも、いろんなことを経験し、いろんなことに挑戦してほしいのです。そのお手伝いができればと心掛けています。以上、私の思いを述べさせてもらいましたが、つながりを広げ自らを高めるためにもと、以下のようなグループに参加しています。大分県地球温暖化防止活動推進員、うちエコ診断士、大分おもちゃ病院ドクター、「ITボランティア」iの手、コンタクトブリッジ同好会等々。コンタクトブリッジとは、世界で一番ポピュラーなトランプゲーム、知的で社交的なゲーム、小学生から高齢者まで楽しめるゲームです。これを是非大分でも広めたいと思っていますところです。

事業報告

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究

(学校・家庭・地域の連携協力推進事業) 大学生等による「学びが苦手な児童」の学習支援活動

本事業は、本年度からコミュニティ・スクールモデル校に指定された別府市立石垣小学校で、学校支援地域本部との連携をとした「コミュニティ・スクールの取り組み」を支援し「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」するものです。取り組み内容は、「心」「命」「親育」「夢」と4つのコミュニティで構成されます。その中で、「夢」のコミュニティは、『地域人材を活用した「地域の歴史と文化・産業の発展」の学習』と『大学生等による「学びが苦手な児童」の学習支援活動』で、児童の年齢に近い別府市出身、別府市在住の大学生等による学力・学習意欲の向上を目指す取り組みを行いました。

これは、前年度からの取り組みが活かされ今回の事業につながることとなりました。受入場所は、朝日小学校放課後児童クラブで月に2回土曜日に「学習支援ボランティア」として実施してきました。遊びをとおして、「子ども」との信頼関係を築き、朝の活動の30分間で「宿題お助けマン」として「学習支援」を行い、その経験をもとに学生が「子ども達と何をしたいか。どんなことが子ども達に必要なか。」等を話し合い、学生が計画する「テーマ型学習支援」を繰り返してきました。打合わせは、大学で昼食をとりながら、学年も学部も違う学生たちが和やかに話し合います。学習支援の日は、必ず集合時に「今日の目標」を確認し、「振り返り」を行います。はじめは、子どもとどのように接したら良いかと緊張していた学生が、継続的にかかわりながら子どもや地域の方、指導員の方に受け入れられることで、大学生は子ども達とのほどよい距離感見つけ、子ども達一人一人に対応してきました。それは、以下のアンケートからもうかがえます。今後も学生が参加できるようなきっかけや目的、場の設定(実践できる環境)を整え、学生だからできることを実感し、社会人になった時にこの経験を活かし、未来を築いてくれることに期待し、学校と地域の新たな協働体制の一助になるよう事業展開をしています。



(放課後学習支援、宿題に取組む)



(放課後児童クラブ、外での活動)



(クリスマスカード作成の様子)



(体感算数ゲームに挑戦中)

*** 以下【支援登録学生の声】3つの問の回答を抜粋したものです ***

問1. 子どもにどんな支援ができましたか

・小学生にもわかりやすいよう難しい言葉を使わないようにした。・小学生からは話しかけにくいと思ったのでこちらから話しかけるようにした。・出来るだけ目線を子どもたちに合わせて指導するよう心がけました。

問2. 支援したことで子どもにとって「良かった。」と感じたことはありますか

・教えている時、笑顔を見せてくれた時。・学校の先生よりフランクな会話はしやすかったと思います。・家族のことや学校のことなどたくさん話してくれました。・楽しく宿題が出来た。・間違いのある問題を指摘したときに、自分でミスを見つけ直し達成感を味わえたこと。・学校の先生とは異なり大学生という立場だったので、子どもたちも話しかけやすかった。

問3. 支援したことであなたにとって「良かったな。」と感じたこと

・勉強を教えながら自分も勉強になった。・明るい気持ちになれたこと。・教え方の工夫、実際に子どもたちとふれあわないと出来ないことが体験できたこと。・今、将来の進路のことなどでカリカリしているので、子どもとふれあえたことで少し和やかになった。

(安達)

会員さんの活動紹介

足利 悦子さん (5期生)

「ころころ Happy」 代表

昨年から取材日の調整をし活動している現場を実際に拝見する事が出来ました。佐伯市立渡町台小学校PTA文教部、教職員のご好意でPTA研修会に子育て公演の様子を取材してきました。足利さんが所属しているころころHappyは心のバリアフリー化を目指しています。苦手なことが多い子どもたちが、学校で、社会で、楽しく生き生きと自分らしく過ごせるように強く願います。個性豊かな子どもたちと、子どもたちを取り巻くすべての大人も、みんなみんなHappyになりますようにと願い活動をしています。ころころHappyの起こりはもともとは、子育てサロン「ころころ」から。子どものハンディキャップを説明したり、迷惑をかけるかもしれないと家庭から出ることができない親子にのびのび遊んでもらいたいという願いからメンバー3名でスタート。団体の名前は、歌遊び(手作り)ころころボールが名の由来です！



(小学校での公演の様子)



(公演会の体験グッズ)

全国に子どものハンディキャップを体験型で啓発している団体が数多くあることを知り、私たちにもできるはずと立ち上がった5名の母たち！現在メンバーは8名で活動しています。今年度の活動は、8月に佐伯市立鶴岡小学校の職員研修、9月に佐伯市立八幡小学校の研修部主催の親子人権講演会、1月に佐伯市立渡町台小学校の文教部の研修の講師として公演、現在、公演依頼があれば、発達障がいのお話と発達障がいの困りのワークショップ。子どもの発達の悩みの相談を月二回、お茶を飲みながら先輩ママを中心に行っています。今回の学校での公演は保護者に発達障がいのお話と実際に疑似体験を通して理解してもらった体験型の公演会でした。取材の私たちも実際にアイテムを使って体験しましたが、分かっていると思っていた事が実際に体験することで子どもたちの気持ちが分かりました。子育てに一人で悩む保護者が増えている中でころころHappyの活動はぜひ応援していきたいと思いました。

最後に協育アドバイザーの会員の皆さんに一言と、これから取り組みたい事を聞いてみました。

足利 特別にハンディキャップをもった子どもだけの問題ではなく、子育てをするすべての大人へ向けて、優しく寄り添うことの意味と大切さを伝えていきたい。それが、ハンディキャップに関係なく子育てに生きていくと信じています。私たちのワークショップを体験しませんか？公演依頼募集中です。そして、メンバーの研修を深め、たくさんの公演を実施して私たちも成長を続けていきたいと思っています。

足利さん、お忙しい中の取材協力ありがとうございました。(上原)



(メンバーのみなさん)



(ユニホームが可愛い！)

地域での活動紹介 大分市鶴崎地区教育懇話会

理事長 園部 秀靖

◎教育講演会(10/18) — 《テーマ》「これで良いのか現在(いま)の教育」

○アトラクション — 「鶴崎踊」(鶴崎小児童踊り子) ・ハーモニカ演奏「ふるさと」(田中喜久男元校長)

○講演「海外日本人学校の教育事情」(ハンブルグ日本人学校元校長 山田俊治氏)

○シンポジウム(阿部豊志鶴崎中PTA会長・姫野美和子明治地区主任児童委員・安部一彦別保小学校長・高橋英子元鶴崎小学校長)

◇シンポジウムのパネラーの発言要旨

・就職しても、すぐ辞める人が多いのはなぜか。知識も大事であるが、「生きる力」の育成が必要。コミュニケーション不足がある。多くの人との関わり合いや外で遊ぶことも。 ・子どもへの対応は個によって違う。多様化しており画一的ではない。悩みを出せる場の提供が必要。 ・我々は、教師として、親として、地域の人として、子どもの傘となっているか。愛をもって接しているのか。子どもは孤立している。 ・互いに認め合う関係づくりこそが必要で、相手がどう思うかである。子どもにはよいところ、すごい力がある。先生や親の都合で、子どもをみていないか。知性と感性のバランスが大事で、感性は人や物とのつながりを通して豊かになる。

◇参加者の感想・意見(アンケートより)

「子どもと犬のしつけはドイツ人に習え。この内容をもっと詳しく聞きたかった。」 ・「聞いたことは忘れる。見たものは覚える。触れたものは身につく。～なるほどと思った。わが子にも感性を広げる教育をしたい。」 ・「親の都合で叱ったり、押さえつけている面がある。また、子どもにはいろんなことを体験させなければ」とも ・「子どもに対する親の課題を教えてください。私が子どものとき、先生が大好きだった。先生に愛されていると感じられることがたくさんあったから。 ・。でも、今はどうでしょう。先生方は「忙しい」という言葉をよく使っていませんか。宿題等の管理も親がすることも多く、何が忙しいのかと感ずることが多くあります。」 ・「授業の様子や子どもの生活態度はどうあるかなど、教育現場の現状を包み隠さず開示して欲しい。」

事務局よりお知らせ

○今年度事業も終盤を向かえました。振り返ってみると「協育」のあゆみがポチポチ前進したような…。ところで、ちょっと早いのですが、**2015年の定期総会は、6月13日(土)10時～12時を予定**しています。総会では、事業報告や決算報告、新年度計画関係だけではなく、会員同士の交流の場になるような計画をいたしますので是非、ご参加ください。

○会員の情報提供(調査票)の提出をお忘れ方は、ご記入いただき投函していただきますようお願い申し上げます。

スキルアップ!!!のご案内

○平成27年2月28日(土)～3月1日(日) 「協育」見本市<2015年(H27年)>

第8回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会が、国東市の「梅園の里」で開催されます。県内外から実践事例発表者が集まり「大いに語ろう～大人がする子ども育て、そして、子どもが活躍するまちづくり～」をテーマに熱く語り合います。今年の一押しは、「おやじたち」の発表。興味深いです。

○平成27年3月14日(土)・3月15日(日)平成26年度大分大学高等教育開発センター『「協育」アドバイザー養成講座(中級編)』6期生「協育」アドバイザー専門研修が大分大学で開催されます。「家庭教育の現状から、地域に関わる必要性を考える」や「いじめの現状と対策及び相談機関に期待すること」など盛りだくさんの研修内容です。受講料は、無料。(事務局 安達)